

MATH やらまいかジャーナル



A Journal of MATH yaramaika

令和7年度（2025年度）12月開催

「MATH やらまいか第13回決勝大会」

活動レポート

トップガン教育システム協議会が主催する「MATH やらまいか第13回決勝大会」は、令和7年12月13日(土) 13時00分～の日程で、浜松科学館みらい～ら1階ホールにて開催されました。

「MATH やらまいか」とは、トップガン教育システム協議会事業のひとつであり、小学1年生から6年生の児童が「算数」のゲームを通してよく見る力・よく聞く力・よく考える力(着眼・推理・分析・思考力)を養いながら、速さと思考力を競う大会です。

算数や数学の面白さ・重要さは「考えること」にあります。小学校で通常行われている授業やテストでは、思考の過程に関わらず、答えが合っていなければ「算数が出来ない」ということになってしまいます。「MATH やらまいか」では、ゲームを通して「問題についてとことん考える」機会を与えることによって、算数の本当の面白さを児童に伝えることを目的としています。

また、大会を通して発掘された優れた算数・数学の才能を持つ児童に対しては、優れた才能をさらに伸ばし、将来的に数学オリンピックに挑戦すること等を視野に入れた、長期的な指導も行っております。

○予選大会について○

後援いただいている地域の全小学校へチラシを配布し第13回大会を周知しました。予選大会には全190名の参加があり、周知した以外にも兵庫県からの参加も見られました。

予選大会では「4つの数字・10の扉」という題で、正4面体の頂点a, b, c, dにある4つの数字を、質問をしながら推理するゲームを行いました。基本的な考え方は、「ヒット・アンド・ブロー(マスターマインド)」と同じですが、扉を開く(条件・質



問を課す)ことで数学的な思考が必要になる問題でした。最高得点は6,118点。予選期間を経過した現在もホームページ (<https://math-yaramaika.com/>) 上にて予選問題を公開しており、いつでも・誰でも挑戦可能です。

どれか3つの数字の

1の扉 かけ算 18 たし算 7 10 100

数字 記号	判定 ○×
2の扉 a > b ?	<input type="radio"/>
3の扉 c = 3 ?	<input type="radio"/>
4の扉 > ?	<input type="radio"/>
5の扉 > ?	<input type="radio"/>
6の扉 > ?	<input type="radio"/>
7の扉 > ?	<input type="radio"/>
8の扉 > ?	<input type="radio"/>
9の扉 > ?	<input type="radio"/>
10の扉 > ?	<input type="radio"/>

推理の数字

a	b	c	d
1	3	6	3
3	1	6	3
6	3	3	1

推理の判定
ヒットフロー

1	3
0	4
4	0

扉判定表示兼判定ボタン

扉の使い方
で
点
数
変
動

推理判定表示兼判定ボタン

a	b	c	d		<	=	>
0	1	2	3	4	5	6	7
8	9						

合計得点 80

残り時間 05:28

スキップ

決勝大会

決勝大会への出場者30名の地域の内訳は、浜松市26名、磐田市1名、袋井市1名、御前崎市1名でした。

開会式では、トップガン教育システム協議会 会長 木村雅和先生から、オンラインにて挨拶と激励がありました。



トップガン教育システム協議会 会長 木村雅和先生

続いて、浜松市長 中野 祐介 氏 による主賓祝辞を頂戴し、参加者を激励していただきました。

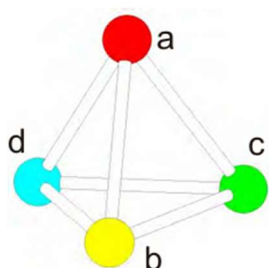


浜松市 中野祐介 市長による主賓挨拶

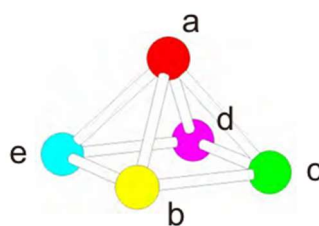
そして、いよいよ決勝問題に取り組みます。問題は全部で12問。難しい問題を、ヒントを使わずに、早く解くことができれば高得点となります。参加者の皆さんはタブレット端末に向かって、1時間、競技に取り組むこととなります。会場では、全員の得点と順位がリアルタイムで映し出され、後ろで見守る保護者の皆さんもドキドキしながら応援します。

決勝問題は「**多面体の数字・10の扉**」という題で、予選問題の正四面体・4つの数字から始まり、四角錐・5つの数字、正六面体・5つの数字、正八面体・6つの数字、立方体・8つの数字まで、求める数字が増えていき、その数字を求めていくゲームでした。

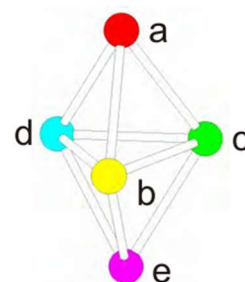
問題1,2



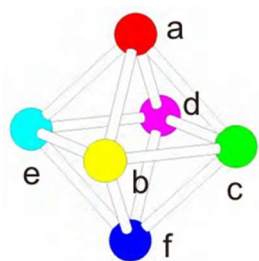
問題3,4



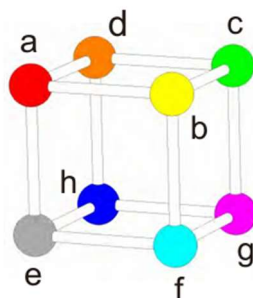
問題5,6



問題7,8



問題9,10



参加者の問題を解く速度は、予想以上に速く、30分ほどで全10問を解き終わる児童もいて、主催者を驚かせました。しかし、速さだけで順位が決まるのではないため、競技終了まで、集中した雰囲気の中、白熱した競技が続きました。



競技課題に取り組む児童



かつて参加したOB(中学生、大学生)も問題に取り組みました。



大人(来賓、運営スタッフ)も問題に取り組みました。



オンラインで競技を見守る木村会長



後ろで競技を見守る保護者の皆様

大会の結果

優 勝	浜松市立広沢小学校	6 年	影山 創哉 さん（写真右）
第 2 位	浜松市立北浜小学校	6 年	寺本 有杜 さん（写真中央）
第 3 位	浜松市立広沢小学校	6 年	坊岡 泉織 さん（写真左）



入賞者には、川田 善正 先生から、メダルと表彰状が授与されました。

また、今回は、5年連続決勝大会出場者の表彰も行われました。

5年連続決勝大会連続出場表彰

聖隷クリストファー小学校 6年 関本 隼也 さん



藤間 信久 先生から、メダルと記念品が授与されました。

静岡大学 塩尻先生のお話

皆さん、本日はお疲れ様でした。皆さんのスピーディーで正確な取り組みは本当に素晴らしく、感心いたしました。静岡大学の塩尻です。どうぞよろしくお願いいたします。

表彰された皆さんは特に優秀な成績を収められ、心からお祝い申し上げます。また、今日ここでの皆さんの活動を拝見し、私自身も大変楽しい時間を過ごすことができました。

私は今回で3回目の参加になりますが、実は点数がほとんど取れず、この会場で一番疲れたのは私ではないかと思うほどでした。それでも、参加者の皆さん、そして決勝まで勝ち抜いてきた皆さんの力を間近で感じられたことは、大きな喜びです。年々、皆さんの成長と素晴らしさに触れられることを本当に嬉しく思っています。

今日お伝えしたいのは、皆さんが持つ力を自信に変え、これからも伸ばしていったほしいということです。私はサイエンスの分野に関わっていますが、科学の世界では「好きなことを追求すること」が何より大切です。

今年、日本人研究者がノーベル賞を受賞しました。北川先生が受賞後、スウェーデンの日本人学校で子どもたちから「ノーベル賞を取ろうと思って研究していたのですか」と質問された際、「ノーベル賞は取ろうと思って取れるものではない。私はただ好きなことを続けてきたただけだ。」と答えておられました。他の研究を学びつつも、自分にしかできない面白いことを追究してきた結果が、受賞につながったのだとおっしゃっていました。

これは、数学や算数に取り組む皆さんにも通じる大切な姿勢です。皆さんは柔軟な頭と無限の可能性を持っています。自然の中にも数学の世界は広がっています。ぜひ「面白い」という気持ちを大切にしながら、今回の経験を糧に、さらに力を伸ばしていきましょう。

最後に、この大会の運営に携わってくださった皆様に深く感謝申し上げます。小学生の皆さんの活躍も素晴らしく、大会は年々充実したものになっています。この大会が今後ますます発展し、今日参加した皆さんが大きく成長して活躍されることを心より願っております。

本日は誠にありがとうございました。



静岡大学 理事・副学長 塩尻 信義 先生

総 評

こんにちは。光産業創生大学院大学の石井です。

まず初めに、今日この大会に挑戦してくれた皆さん、そして最後まで難しい問題に向き合い続けてくれた皆さんに、心から拍手を送りたいと思います。



今日の問題については、作問を担当された藤間先生からも、その意図を伺っています。今回の問題は、推理しながら論理的に考え、答えを導き出す力を育てることを目的として作られたものです。まだ習っていない「約数」や「素因数」の考え方、図形の関係など、複数の要素を組み合わせて考える総合問題になっていましたが、皆さんが一生懸命チャレンジしてくれたことを大変嬉しく思います。

全部解けた子も多く、簡単だったのかなと思うかもしれませんが、大人でも難しい内容が含まれており、決して易しい問題ではありません。その中で皆さんが真剣に取り組んでくれたことは、本当に素晴らしいことです。

また、今日の問題は「いかに少ない質問でヒントを得て、60分という限られた時間を有効に使い、得点につなげるか」という点でも工夫が求められました。そうした難しさの中で、皆さんが自分で考え抜きながら取り組んだ姿勢を高く評価したいと思います。

今日はルールに基づいて点数や順位がついていますが、本当に大切なのは、皆さんがこの問題に挑戦し、「楽しい」「解けて嬉しい」「難しいけれど挑戦してみたい」と感じたことです。この緊張感のある場で得た経験こそが、皆さんにとって最も大きな財産になるはずです。

ぜひこの経験を持ち帰り、「やрмаいか精神」を忘れず、これからも新しいことにどんどん挑戦し続けてください。

続いて、保護者の皆様、本日は会場にお越しいただきありがとうございました。お子様がこの大会に挑戦できる環境を整え、日頃から支えてくださっていることに心より感謝申し上げます。今日の経験が、今後さらに多くの挑戦へとつながるよう、引き続き温かいご支援をお願いいたします。

最後に、この大会を支えてくださったトップガン教育システム協議会の皆様、協賛企業の皆様、そして運営スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

以上をもちまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

閉会挨拶

ただいまご紹介いただきました浜松医科大学の梅村と申します。

本日は、「MATH マスやらまいか」にご参加いただきまして、大変ありがとうございます。

今日の皆さんの取り組みを見ていますと、数学っておもしろいな、できると楽しいな、そういう雰囲気がすごく会場全体に広がっていたように感じました。今日できたこと、ちょっと難しいかなって思ったこと、すべてが皆さんの力になっていると思います。

数学の力は、ロボットを動かしたり、ゲームを作ったり、身の回りのなぜを考えたり、人を助けたり、いろんな研究に広がっていきます。今日皆さんが感じていただきました、わからない、考える、わかった、その流れを楽しんでいただきたいと思います。

今日のイベントを支えていただきました先生方、ご家族の皆様、そしてスタッフの皆様、さらにここに参加してチャレンジしていただいた皆さん、深く御礼申し上げます。また来年、皆さんがさらに成長して、ここに来ていただいて、またチャレンジしていただくことを楽しみにしております。

本日はどうもありがとうございました。



浜松医科大学 理事・副学長 梅村和夫 先生

優勝者 感想

ぼくは、4年生の時に友達のすすめでMATHやらまいかに挑戦しました。初めて予選問題に挑戦した時は、問題の意味が分からず問題を解くのが嫌になり諦めてしまいました。

5年生の時にもう一度MATHやらまいかに挑戦しました。その時は、決勝に行くことができましたが、決勝に行くことだけを意識して予選に取り組んでしまったため、決勝ではただいだけで終わってしまいました。

今年は、4年生、5年生の経験をふまえて、”問題の理解”に重点をおきました。その結果、決勝大会で優勝することができました。

MATHやらまいかは、初めはとても難しいと感じました。けれど、挑戦しているうちにだんだんと楽しいと思えることが多くなってきました。難しい問題が解けた時は、特に爽快感がありました。

これからMATHやらまいかを始める人は諦めないで、何度も挑戦して欲しいです。

ぼくも、MATHやらまいかで学んだ“一つ一つをじっくり考えること”を大事にしていきたいと思います。

浜松市立広沢小学校 影山 創哉 さん

